



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問合せ先 財務戦略統括部 IR推進部
 TEL 03-6895-0178

2022年3月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	3月度	累計	3月度	累計
百貨店事業	4.9	-	5.8 (6.8)	-
SC事業	▲15.0	-	▲1.6	-
デベロッパー事業	▲30.9	-	▲30.9	-
決済・金融事業	35.4	-	35.4	-
その他	▲20.1	-	▲19.9	-
連結合計	▲8.5	-	0.6	-

- ※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業(パルコSC)」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。百貨店事業の()内は、松坂屋豊田店の値を控除した増減率を示しております。
 5. 当社は、2021年6月30日付で(株)ヌーヴ・エイの全株式を譲渡しました。
 6. (株)大丸松坂屋百貨店は、2021年9月1日付で(株)大丸松坂屋セールスアソシエイツを吸収合併しました。
 7. 当社は、2022年2月28日付で(株)ディンプルの株式の90%を譲渡し、連結の範囲から除外しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 3月度の売上高は、入店客数の増加や、ラグジュアリーブランド、宝飾品の好調などにより大丸松坂屋百貨店合計(既存店)では対前年7.5%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計(既存店)では同6.8%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高は対前年26.3%増(客数同▲1.9%減、客単価同28.7%増)であった。
- 大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年7.3%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の4月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、ラグジュアリーブランド・宝飾品の好調や、前年のまん延防止等重点措置の反動などもあり14日までの累計で対前年15%増(対2019年▲21%減)、国内売上高は同14%増(対2019年▲10%減)で推移している。

2) SC事業

- 2021年6月30日付で(株)ヌーヴ・エイの全株式を譲渡したことを主因に、SC事業の3月度の売上収益は対前年▲15.0%減、総額売上高は同▲1.6%減となった。
- パルコ店舗テナント取扱高は、継続して新型コロナウイルス感染症の拡大の影響があったものの、前年に緊急事態宣言が発令されていた反動などにより、全店計で前年に対してプラスとなった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、パルコスペースシステムズが増収となったものの、J.フロント建装が前年の大口受注の反動などから減収となり、トータルで減収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、年会費や加盟店手数料の増加等により、増収となった。
- その他は、卸売業である大丸興業が電子デバイス事業を中心に減収となったほか、(株)ディンプルの株式の90%を譲渡し連結範囲から除外したことにより、トータルで減収となった。

【お問合せ先】 J.フロント リテイリング株式会社
 ・ IR推進部 TEL 03-6895-0178
 ・ グループ広報推進部 TEL 03-6895-0172

2022年3月度 百貨店事業 営業報告(日本基準)

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	3月度		累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	11.0	7.8	-	-
大丸 梅田店	5.8	4.8	-	-
大丸 東京店	19.7	22.7	-	-
大丸 京都店	0.9	1.2	-	-
大丸 神戸店	11.2	4.2	-	-
大丸 須磨店	▲8.9	6.2	-	-
大丸 芦屋店	1.5	5.3	-	-
大丸 札幌店	4.9	7.9	-	-
大丸 下関店	▲12.2	▲10.4	-	-
松坂屋 名古屋店	6.5	0.5	-	-
松坂屋 上野店	6.3	13.1	-	-
松坂屋 静岡店	▲0.9	4.8	-	-
松坂屋 高槻店	4.7	24.6	-	-
店 計	6.0	6.4	-	-
既存店計	7.2	7.9	-	-
法人・本社等	12.7	-	-	-
大丸松坂屋百貨店合計	6.3	6.4	-	-
うち商品売上高	6.1	-	-	-
うち不動産賃貸収入	13.8	-	-	-
既存店計	7.5	7.9	-	-
博多大丸	3.0	10.8	-	-
高知大丸	▲10.2	▲6.7	-	-
百貨店事業合計	5.8	6.5	-	-
既存店計	6.8	7.9	-	-

※注) 1. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。
 2. 既存店計には、松坂屋豊田店の前年実績値を含みません。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	全店計	
	3月度	累計
紳士服・洋品	5.7	-
婦人服・洋品	14.2	-
子供服・洋品	▲7.0	-
その他の衣料品	10.0	-
衣料品計	12.3	-
身 回 品	▲0.5	-
化粧品	4.7	-
美術・宝飾・貴金属	6.4	-
その他雑貨	▲5.7	-
雑 貨 計	4.7	-
家具	▲10.2	-
家電	▲2.2	-
その他の家庭用品	▲13.8	-
家庭用品計	▲12.8	-
生 鮮	▲10.2	-
菓 子	5.8	-
惣 菜	3.9	-
その他食料品	▲2.3	-
食料品計	1.5	-
食堂・喫茶	6.9	-
サービス	4.5	-
そ の 他	▲1.0	-
合 計	6.1	-

- ・ 婦人服・洋品はラグジュアリーブランドが好調を持続したことに加え、ジャケット、ブラウスなど春物の通勤・お出かけスタイルのアイテムが好調であった。紳士服は、フレッシュアーズ需要などによりスーツが好調に推移。雑貨では、化粧品がスキンケア商品の好調などから前年を上回ったほか、宝飾品も催事の好調を背景に対前年二桁増となった。食料品は、入店客数の増加やホワイトデー需要などにより、菓子が好調であった。

2022年3月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	3月度	累計
札幌PARCO	▲6.4	-
仙台PARCO	5.9	-
新所沢PARCO	▲6.6	-
浦和PARCO	0.2	-
池袋PARCO	5.5	-
PARCO_ya上野	6.3	-
ひばりが丘PARCO	7.2	-
吉祥寺PARCO	2.1	-
渋谷PARCO	38.3	-
錦糸町PARCO	5.0	-
調布PARCO	3.0	-
津田沼PARCO	▲11.6	-
松本PARCO	▲7.1	-
静岡PARCO	▲5.8	-
名古屋PARCO	▲4.9	-
心齋橋PARCO	0.9	-
広島PARCO	▲7.0	-
福岡PARCO	0.8	-
全店計	1.9	-

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	3月度	累計
衣料品	2.9	-
身回品	0.4	-
雑貨	0.6	-
食品	1.8	-
飲食	8.5	-
その他	▲1.5	-
合計	1.9	-

3. 営業概況

- ・ 3月は、継続して新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったものの、前年に緊急事態宣言が発令されていた反動などにより、全店計で前年に対してプラスとなった。
- ・ アイテム別では、特に飲食が、前年の緊急事態宣言による営業時間短縮などの反動が影響し、大きく前年を上回った。
※一部店舗にて時間を短縮して営業